

2014年度
海外研修・研究等 助成事業 研修報告

世界大会から見た 「科学」の教育観

「グローバル・サイエンスリンク・シンガポール」
の視察・参加

静岡県立富岳館高等学校 教諭 望月 基希

現在、世界の国々はさまざまな分野で国際競争に直面している。この、グローバル社会では、今、経済成長と環境問題のバランスを考慮し、科学と社会のつながりの中で問題解決ができる人材、そして良質なイノベーションを生み出す起業家が求められ、教育の分野ではそれを支援する教育環境の重要性がますます高まっている。

「グローバル・サイエンスリンク・シンガポール」の視察・参加

これまでの教育は教師が生徒に知識や思考方法等を教授し、生徒の能力向上に主眼が置かれていたが、今は、生徒が課題について自ら考え調査や議論を行うという行動する教育が望まれている。

本校・総合学科生物生命系列においては、科学教育を通した農業実践を目指している。そして、生徒の将来の自己価値実現を教育現場に取り入れる方策を探ることを目的に、昨年7月、世界の中高生を対象とした第1回「グローバル・サイエンスリンク・シンガポール」において、科学教育やプレゼンテーション能力の育成方法を研修・視察した。日本からは本校の生徒3名を含め6校、海外からは5カ国13校、計19校の中高生が参加、科学アイデアコンテスト（英語によるプレゼンテーション）で、研究成果を競い合った。本校は「地球温暖化から産地を守る～植物成長調節物質を活用した新たな環境資材の開発～」について発表、世界的な科学学習のあり方を学ぶことができた。

アジアの中高生と国際交流

科学アイデアコンテストは、江崎玲於奈博士からのメッセージや海洋生物学者のアルフォンソロボス博士によるキーノートスピーチ、審査員パネルディスカッションが行われた後、オーラルセッション、ポスターセッション、英語によるディスカッションが行われた。日本から参加した生徒からは「世界を視野に情報発信することの重要性を知った」、「グローバルという世界を知り、将来海外で活躍したいと思った」、「各国の発表を聞いて地球環境に危機感を感じた」、「国内の研究発表は世界レベルと比べると小さい」、「グローバルでつながるための英語学習が重要」など、多くの意見や感想があり、国際交流から学ぶことが大変多かったと評価される。

また、フュージョノポリス（ハイテク研究拠点）、MARC（海洋生態研究所）、南洋工科大学など、科学技術の最先端の研究拠点なども訪問・視察し、日本の中高生達が将来の科学を考えるにあたって貴重な体験となった。

研修を終えて

日本が、今後、環境や生態系科学などで国際的なリーダーシップを発揮していくためには、中高生の段階から農学等の分野で専門知識や研究技術を磨き、社会で活躍できる人材を育成することが重要であり、特に、環境問題に関する教育は最重要と考える。本校の生徒は世界大会「グローバル・サイエンスリンク・シンガポール」に出場し、世界の高校生と競い合い交流することで、科学的リテラシーが向上、プレゼンテーション能力も高めることができた。また、物事の本質を見極め、考えを積極的に表現、仲間と協力しベストな解決策を導き出すという、自発的な姿勢と行動の大切さを身につけた。

この世界大会はアジアを中心に世界の中高生を結び、セッションとプレゼンテーションによる意見交換の場を多く設け、世界を舞台に活躍する人材「グローバル・リーダー」を育成する機会を提供している。私は本研修を通し、グローバル・リーダーに求められる能力とは「夢を実現する機会を国境にとらわれずに選択できる力」にあることを認識した。



表彰式と
本校生徒の発表

